愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	文化人類学		
担当者(Instructors)	西尾 敦史	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

文化人類学は、「文化」という概念を手がかりに、さまざまな人間の行動の差異に注目し、それらを多様性と普遍性という観点からとらえ、「人間とは何か」について考える学問である。本講義における「文化」は一般に使われる「文化」の意味よりも広く、言語と同様に、人間の行動様式、身体所作、思考や認識にも影響を与えるものととらえている。そのうえで、文化人類学の知識、視点、方法を学び、ものごとや世界についての新しい認識の仕方を身に付ける。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	オンライン（リアルタイム）による講義が中心となるが、フィールドワーク体験やKJ法などによる意見交換を取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	世界の分類と認識（イントロダクション）	人びとが世界を象徴（シンボル）をとおして分類（カテゴリー化）し、理解・認識する言語・文化のあり方について学ぶ。	□
第2回	異文化体験と文化相対主義	異文化体験は、自らの文化が自明なものではなく、それを相対的に見る視点を提供する。異なる世界を知る方法論としてのフィールドワークについても学ぶ。	□
第3回	言語と思考	「サピア＝ウォーフの仮説」を中心に、人間の文化に深く位置づけられている言語を通して，人間の思考（認識）の様式への影響と拘束性について学ぶ。	□
第4回	沈黙のことば	文化を「時間の処理の仕方、空間的関係、仕事や遊びや学習に対する態度を規定する、行動様式」ととらえる、エドワード・T・ホールの研究について学ぶ。	□
第5回	グローバリズムと標準化	グローバル化には、経済力などの力を背景に、単一の基準を押しつける側面があるが、こうした標準化が、固有の文化や価値に及ぼす影響について考える。	□
第6回	親族の基本構造	世界には特定の親族との結婚を規定する制度をもつ親族体系があるが、親族集団間で結婚によって女性が交換される体系、「親族の基本構造」について学ぶ。	□
第7回	どこまでが人か	人間社会はどこからどこまでを人として認識するのか。受精卵、胎児、誕生、死と脳死、臓器移植などをとおしていのち／生命観について考える。	□
第8回	人生と通過儀礼	人は一生の間にさまざまな通過儀礼を経験する。なぜ通過儀礼があるのか、なぜ人は時間やエネルギーをつぎ込んで儀礼をおこなうのかについて考える。	□
第9回	贈与論	経済活動は、市場における交換が中心であるが、贈与経済も普遍的に見られる。ボランティアや寄付などの活動も含めて、贈与とその可能性について考える。	□
第10回	フィールドワークによるモノグラフ（民族誌）I 八重山諸島	石垣島明石集落の生活文化について、年中行事や人生儀礼、芸能、食文化等をとおして学ぶ。	□
第11回	フィールドワークによるモノグラフ（民族誌）II 宮古島諸島	宮古島諸島の民俗文化について、離島、集落の固有の生活文化、芸能、海洋漁労文化等をとおして学ぶ。	□

第12回	フィールドワークによるモノグラフ（民族誌）Ⅲ 奄美・沖縄（琉球弧）の芸能・文化	琉球弧の島々、奄美・沖縄諸島の、自然環境、景観、民間信仰や芸能について、エイサー、歌・音楽、ユタ、マブヤーなどの信仰をとおして学ぶ。	□
第13回	フィールドワークによるモノグラフ（民族誌）Ⅳ 花をたずねて吉野山	今日、桜の名所として有名な吉野山だが、本来自然な山が、なぜ一面桜に覆われているのか？その理由を花への信仰、山岳信仰などから考える。	□
第14回	フィールドワークによるモノグラフ（民族誌）Ⅴ ハワイイ紀行	ハワイの自然と文化と信仰について、サーフィンやフラの由来、火山信仰、タロ芋文化、航海技術の謎などから考える。	□
第15回	食文化と発酵文化	世界の食文化の多様性について、とくに発酵文化、醸造文化との関係において学ぶ。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

次回授業のテーマに関する情報をインターネット・図書館などを通じて調べる（予習2時間）。 授業で取り上げたテーマ課題について、他地域、異文化の事例などを調べて考察を深める（復習2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

Teams上に提示する授業内課題、小テスト、および記述式課題については、翌週（次回）の授業の冒頭にコメントをし、フィードバックを行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	**◆ 2019全学共通DP1**	学びの基礎となる社会、文化、自然等の文化人類学および周辺領域に関する幅広い知識を習得し、それを活用することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

各授業回ごとに、Teams上に、授業内課題、小テスト、および記述式課題を掲載するので、授業翌週回までに提出すること。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業において資料を提示する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	波平 恵美子（2021）『文化人類学［カレッジ版］ 第4版』医学書院	
2	『野生の思考』（1976）クロード・レヴィ=ストロース（著），大橋 保夫（翻訳)みすず書房	
3	『汚穢と禁忌』ちくま学芸文庫（2009）メアリ ダグラス（著），Mary Douglas（原著），塚本 利明（翻訳）	
4	『かくれた次元』（1970）エドワード・T・ホール（著），日高 敏隆（翻訳），佐藤 信行（翻訳） みすず書房	
5	『花をたずねて吉野山 ―その歴史とエコロジー』集英社新書（2003）鳥越 皓之	